

# 平成 21 年度 東京都立武蔵丘高等学校経営報告

平成 22 年 3 月 31 日

## 1. めざす学校の姿

- ①本校は、平成 21 年度、「めざす学校の姿」として以下を掲げた。
  - ・一人ひとりが自らの生き方を模索し、学力の向上と進路目標の達成に全力でチャレンジする中堅上位の進学校。
  - ・授業・部活動・特別活動に力を注ぎ、自らを磨き続ける向上心と仲間とのきずなを培うコミュニティ。
  - ・この生徒への愛情は誰にも負けないという気概をもち、授業改善と生徒指導に熱意をもって取り組む学校。
- ②その上に以下のような生徒を育成に努めることをめざした。

地球のため、社会のため、人のために貢献しようとする高い志をもち、正義感と問題意識にあふれ、将来の進路を見つめ、日々学び、自らを磨き続け、人としてバランスのとれた活性を培い、仲間と強く深い絆で結ばれた若者を育てる。

## 2. 具体的な取組の方針と目標

具体的には、主に以下のような取組課題、方針と目標を立てた。

### 【学習指導・進路指導】

- ①「いい授業創造プロジェクト」を組織し、相互の授業参観を新たに行い(年 50 回以上)、「授業改善・学力向上研究誌」を創刊し、授業改善を進める(授業満足度目標 66%)。
- ②各学年・教科・分掌等が協力し、自学自習の習慣化をめざす取組を進める。
- ③長期休業中に 25 講座(昨年 21 講座)以上の補習を組織的に推進する。
- ④組織的で系統的な進路指導を推進する。とくに模擬試験等を活用して生徒の学力や学習状況の変化を記したカルテを全学年で作成し、全生徒・保護者と面談の充実をする。進路研修会 5 回、進路意識啓発事業 10 回を行う。上・中位の大学合格 40 名以上の達成を図る。

### 【生活指導(学校行事・部活動を含む)・保健指導等】

- ①一部が形骸化しつつあった「学校生活の心得」を指導基準として共有化を図る。生活指導部と学年との協力体制を強化し、「規律ある自由」をめざし、「誉めて認めて励ます」「言って聞かせて待つ」指導を基本に、挨拶・身だしなみの整った学校を創る。進捗状況を毎月確認し、企画調整会議で共有化し全校にフィードバックする。
- ②生徒の自主自律的な取組を称揚する。部活動の活性化に力を注ぐとともに、体育祭・文化祭・合唱祭で教員が委員会に委任して主宰する指導を徹底し、行事の「理想形」の確立に重点を置く(行事満足度目標 66%)。
- ③生徒の心身の健康を維持・増進するために、養護教諭と保健部を中心に組織的な対応を図る。また、「毎日清掃する学校」をめざし、表彰制度なども活用しながら美化活動に力を注ぐ。
- ④標準服のリニューアルを 12 月の学校説明会までに進める。

### 【広報活動・生徒募集活動】

- ①募集対策のやり方(とくに、パンフ、説明会)の見直しと改善を最大の課題とする。8 月までに中学校・塾訪問 200 回(昨年 169 回)、体験授業 2 回・出前説明会 5 回、学校説明会 1,200 名(昨年 1079)、学習塾に対しても広報活動を行う。

- ②中進対での予想倍率（過去3年間、男女いずれかが1.0倍を割ってきた）において男女とも1.0倍以上を目指す。

#### 【学校運営の組織的な展開】

- ①主幹会議・企画調整会議の運営と内容を改善し、主幹教諭や各主任等の学校経営参画意識をさらに高める。
- ②カリキュラム検討委員会、いい授業創造プロジェクト（授業評価委員会兼務）、初任研や2・3年次研修指導教諭に主任教諭を充てる体制の整備を行い、教育活動活性化の牽引役とする。
- ③各分掌や各分掌で組織目標の立案などにより、組織活動の強化を図る。
- ④経営企画室の機能を活かし、自律経営推進予算の適正な執行と効果的な活用を図る。次年度の予算編成にあたっては、PDCAを活かした工夫を図り、戦略的な予算編成を行う。

### 3. 今年度の成果と課題

今年度の多様な取組により、以下のような成果があがり、さらに新たな課題も発見できた。

#### 【学習指導・進路指導】

<主な成果>

- ①「いい授業創造プロジェクト」を全教員参加で立上げ、教員相互の授業参観を合計107回行った。学力向上授業改善研究誌『恋文、そして挑戦状』を3千部印刷し、全校生徒、学校説明会に来校した中学生と保護者に配布した。
- ②学力向上、センター対策、小論文、難関私大（日史・世史）等、多様な補習を土曜、長期休業中に実施した。夏27回(昨年26)に加えて、冬17回(昨年1)、春季休業中4回(昨年0)。「英語暗誦大会」では、英語科の努力により、生徒の学ぶ意欲が向上するとともに、決勝大会参加者間に連帯感の高まりも見られた。英検では、英語科全員での補習も行われ、2級1名、準2級22名、3級6名が合格を果たした。
- ③自学自習の習慣化を図るため、各教科、各教員が授業の内容と方法の工夫に努めた。生徒の要望を捉え、学年ごとの自習室を開設した。その結果、約50%の生徒が「前年度よりも予習・復習をよくやるようになった」（生徒による授業評価）と回答した。
- ④こうした取組が、習熟度別授業の拡充（1年数学A、3年英語ライティング）、SHR（朝学習）、長期休業中の課題の組織的な提起、課題確認テストの実施につながり、さらには指導部新事業「学力向上開拓推進校」に応募し、指定を受けるに至った。生徒の授業満足度は、目標の66%を上回り、69.6%となった。
- ⑤GMARCH全校や東京理科大、武蔵大など上位・中位の大学へ92名（目標40名）が合格を果たした。「キャリア教育検討プロジェクト」を立上げ、系統的で組織的なキャリア教育の創出に向けて見直しと再構築を開始し、一部は22年度から実施することとした。

<課題>

- ①本校の生徒の「学力の伸びしろ」が大きいことを確認できた。適時に適切な指導を意識的かつ組織的に重ねることで、生徒の学力をさらに向上させることが期待できる。
- ②「学力向上開拓推進校」として本校の生徒の特性の分析と把握、それに焦点化した学力向上策を推進する。新規のSHR（朝学習）の内容と方法を工夫し、定着を図る。
- ③「キャリア教育検討プロジェクト」を核に本校のキャリア教育を抜本的に見直し、進路指導部を牽引車として各分掌と各学年とが緊密な連携を図り、キャリア教育を推進する。併せて、本校独自の進路学習の計画とテキストを開発する。

## 【生活指導（学校行事・部活動を含む）・保健指導等】

### <成果>

- ①「生活の心得」の趣旨を徹底し、「規律ある自由」を基本に据えた、「誉めて認めて励ます」「言って聞かせて待つ」指導が浸透してきている。

「時間が守れる学校」をめざし、チャイムと同時に始業する体制の定着に努めるとともに、遅刻指導強化月間を実施し、平均で一日の遅刻者を30%減らすことができた。

「身だしなみの整った学校」「挨拶のできる学校」「集会で私語のない学校」「全員で校歌が歌える学校」の面でも前進が見られ、「落ち着いた校風」との評価が学校運営連絡協議会等で高まった。

- ②体育祭では、スムーズな運営が実現し、応援団も復活を果たした。文化祭では、企画の充実に力が注がれ、来場者も1200名を超えるまでに回復した。合唱祭では質の高い演奏が実現し、内容の充実にさらに図る動きが出ている。行事満足度は84%を達成した。
- ③部活動では、水泳部個人メドレー都8位、女子硬式テニス都立高校大会で単・複準優勝、ソフトボール部都16位の他、ソフトテニス部による練馬区中学校対象の「武蔵丘杯争奪戦」の継続実施、吹奏楽部のコンクール出場、文芸部の新設など、部活動活性化の地道な努力が重ねられている。こうした取組が評価され、平成22年度から「部活動推進指定校」の指定を受けた。
- ④養護教諭と保健部を核とする生徒の心身の健康を守る取組が進展し、とくにインフルエンザ等において迅速かつ適切な対応が図られた。  
日々の粘り強い指導に加えて表彰制度を設けて環境美化を促進し、「毎日清掃する学校」という考えが浸透し、美しい学校づくりに向けて大きな前進が図られた。
- ⑤生徒や中学生の意見も参考にしながら標準服の改訂を行い、冬服と夏服とも中学生と保護者から好評を博し、生徒募集面でも好影響を生んだ。

### <課題>

- ①「規律ある自由」をめざし、いつでもどこでも誰でもが「言って聞かせて待つ」「誉めて認めて励ます」指導を重ね、「生活の心得」の内容をさらに全校に浸透・定着させていく。  
とくに、学年によって標準服が異なるなかで、1年生には新しい標準服の着用を定着させ、2、3年生にはTPOをわきまえた身だしなみの指導を充実する。
- ②学校行事の質的な一層の充実に力を尽くすとともに、顧問等による指導や施設設備等の充実に努めて「部活動推進指定校」として活力ある部活動を展開する。
- ③生徒の心身の健康を守る指導、環境美化の活動をさらに継続する。

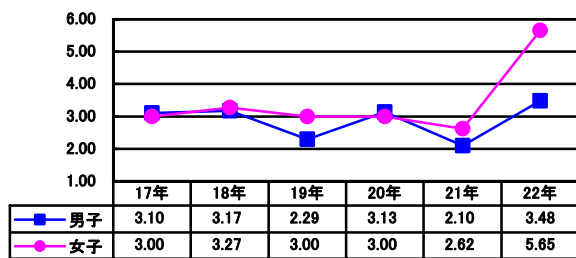
## 【広報活動・生徒募集活動】

### <成果>

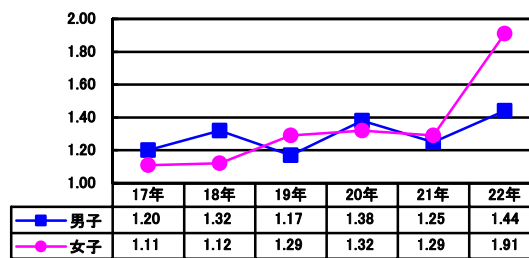
- ①中学生授業体験2回、部活動体験2回、学校説明会4回（昨年より計4回増）。出張説明会15回（12回増）で、参加者は2,419名（昨年より570名増の1,849名）となった。説明会の内容も大改造した。中進対倍率は男子1.20倍、女子1.61倍で、推薦倍率は男子3.48倍（昨年2.10倍）、女子5.65倍（全都普通科で第6位、昨年2.62倍）、一次倍率は男子1.58倍（昨年1.28倍）、女子1.93倍（昨年1.30倍）となった。全校をあげての学校改革、生徒募集活動の量的質的な改善が功を奏して、本校を第一志望とする生徒が急増した。

### <課題>

- ①教育活動の一層の充実に努め、高まりつつある本校への期待に応える。
- ②その上で、今年度の成果に甘んじることなく、広報・生徒募集活動の充実・強化を図り、次年度以降も本校を第一志望とする生徒の獲得に最大限の力を注ぐ。



推薦入試倍率の推移



学力検査の実質倍率の推移

### 【学校運営の組織的な展開】

#### <成果>

- ①主幹会議・企画調整会議が、学校運営に係る諸問題の解決に向けた検討・意見集約・調整機能の場として本来の機能を発揮しつつある。
- ②委員会、教科代表、初任研、2・3年次研修の指導教員に当たった主任教諭それぞれの取組を牽引した。
- ③中間総括、次年度の経営計画の素案策定、各教科・分掌の総括と方針を踏まえた予算案づくり、最終総括と次年度への書面による引継ぎの実施など、学校運営のPDCAサイクルの徹底が、組織的に前進した。
- ④経営企画室を軸に、自律経営推進予算を効率的かつ適性に執行するとともに、生徒の学ぶ意欲と学校生活へのモチベーションの高揚につながる予算の策定を行うことができた。内部努力が功を奏し、施設設備の充実を図るための増額申請を得ることもできた。

#### <課題>

- ①教職員相互の情報の共有化を図り、風通しの良い連帯感のある学校運営を実現する。とくに、企画調整会議の機能を活かし、検討内容等を各分掌や学年の構成員に浸透させる。
- ②PDCAサイクルをさらに徹底し、自校の課題を発見し、解決策を立案し遂行する力を組織的に高める。

### 4. 学校運営連絡協議会での評価など

年度末に行われた学校運営連絡協議会では、以下のような意見や評価が寄せられた。

- ①今回の入選の結果は、先生方の募集対策の努力が報われた。今回の入学選抜で倍率が上がった分析を行い、今回生徒が武蔵丘を選んだ理由についても確認した方が良い。
- ②都立高校約200校の中でわずか3校が「学力向上開拓推進校」と「部活動推進指定校」の2つに選ばれた。そのメリットを活かせるように取り組んで欲しい。
- ③進路指導で学校は大変頑張っていると思う。知人の子供が、規則がゆるやかな学校だと聞いて入学したけれど厳しくなったが、親からするとありがたいという話を聞いた。
- ④生徒が非常に盛り上がっている状況が感じられた。先生方は大変かも知れないが。
- ⑤子供が毎日のように学校の話をするようになった。苦手な科目でも先生が工夫して授業しているので良く理解できる。他の教科でも質問するとすぐに教えてもらえ、ありがたい。
- ⑥アンケートの結果（今年度の教育活動の取組で、「学校がよくなった」と考えますか）

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
6	1	0	0	0	0

以上